

## 議題 1

# 住宅における電気火災に係る防火安全対策検討会 (第2回) における委員意見について

住宅における電気火災に係る防火安全対策検討会 (第3回)

# 1 廃棄物処理施設等で発生したエアゾール缶等を原因とする火災統計の分析

## 廃棄物処理施設等で発生した充電式電池等を原因とする火災統計の分析

○ 第2回検討会において、火災予防広報により実際に火災件数が減少した事例として、**塵芥車におけるエアゾール缶等※の不適切な廃棄による火災件数**は、広報により一定の効果が得られているとの意見があったため、廃棄物処理施設及び塵芥車の分析を行った。

※（カセットガス及びスプレー缶（殺虫剤、消臭スプレー、ヘアスプレー等）を含む）。

### 1 分析対象

平成7年から令和4年までの火災統計のうち、以下の条件に当てはまるもの。

- (1) 「廃棄物処理施設」において発生した火災で、着火物が「エアゾール缶等（カセットガス及びスプレー缶（殺虫剤、消臭スプレー、ヘアスプレー等）を含む。）」であるもの。
- (2) 「塵芥車」において発生した火災で、において発生した火災で、着火物が「エアゾール缶等（カセットガス及びスプレー缶（殺虫剤、消臭スプレー、ヘアスプレー等）を含む。）」であるもの。

### 2 留意事項

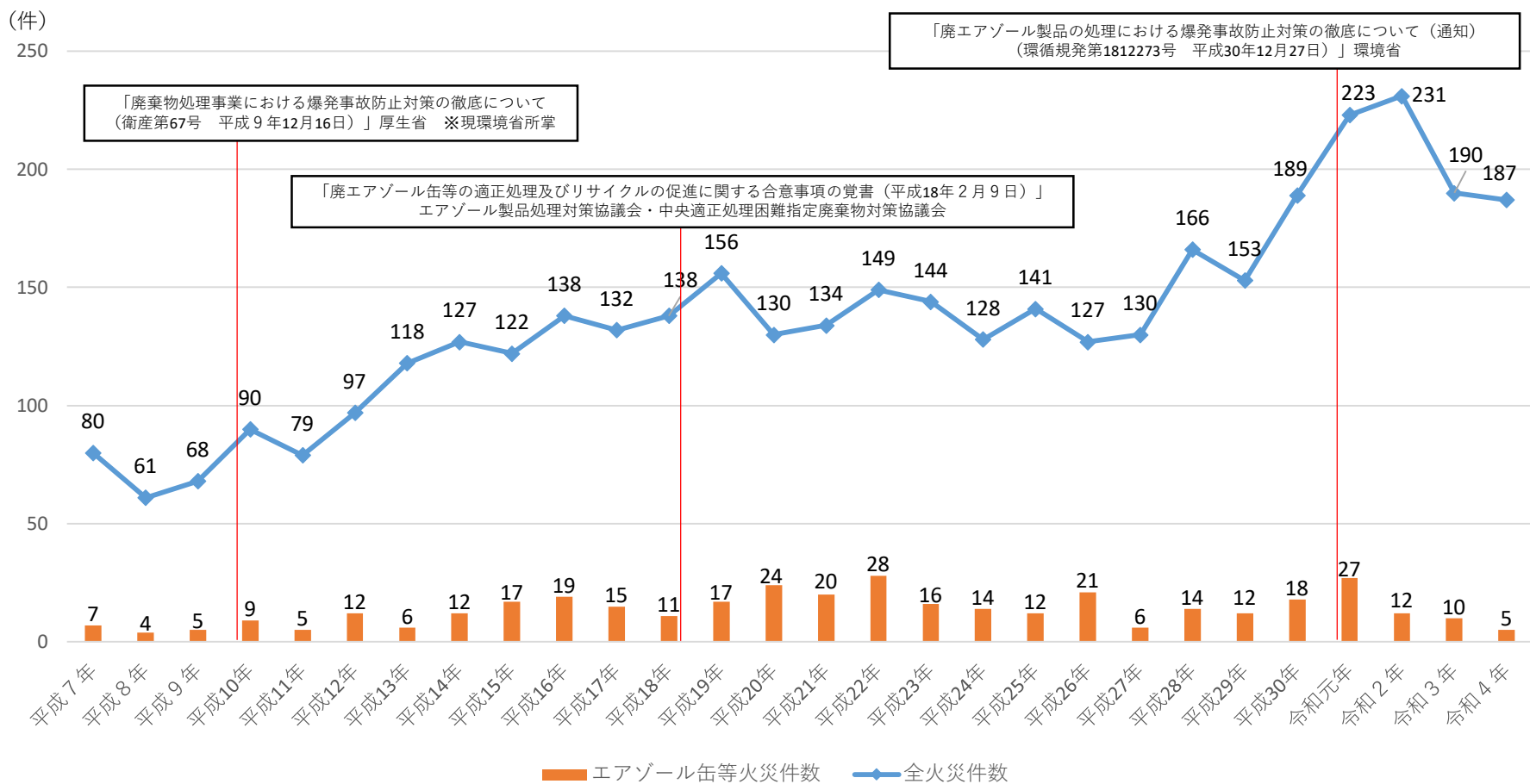
- ・本分析における火災件数は、「廃棄物処理業」を業態とする施設・車両における火災のうち、防火対象物用途区分が「廃棄物処理施設」及び「塵芥車」に該当する可能性のあるものを集計している。
- ・着火物は、火災報告取扱要領別表第3 出火原因分類表3表のうち、「227 LPG（カセット用）」「228 LPG（スプレー用）」を集計している。

# 1 廃棄物処理施設等で発生したエアゾール缶等を原因とする火災統計の分析

## 廃棄物処理施設で発生したエアゾール缶等を原因とする火災件数の推移

- **廃棄物処理施設**で発生した火災は、令和3年及び4年は減少しているものの、平成28年以降、増加傾向が見られる。
- エアゾール缶等の不適当な廃棄が原因と考えられる火災は、年ごとの件数の差はあるものの、横ばいとなっている。

廃棄物処理施設で発生したエアゾール缶等を原因とする火災件数の推移



# 1 廃棄物処理施設等で発生したエアゾール缶等を原因とする火災統計の分析

## 塵芥車で発生したエアゾール缶等を原因とする火災件数の推移

- 一方、**塵芥車**で発生した火災は、平成28年以降、増加傾向が見られるものの、平成15年のピーク値（466件）と比較すると約7割に減少している。エアゾール缶等の不適当な廃棄が原因と考えられる火災についても同様の傾向が見られ、平成20年のピーク値（302件）と比較すると約4割まで減少している。
- これは、消防本部等における継続的な広報と、「**「廃エアゾール缶等の適正処理及びリサイクルの促進に関する合意事項の覚書（平成18年2月9日）」**による市区町村及びエアゾール業界等の取組（ガス抜きキャップ等の中身排出機構の推進）により、一定の効果が得られたものと考えられる。

### 塵芥車で発生したエアゾール缶等を原因とする火災件数の推移

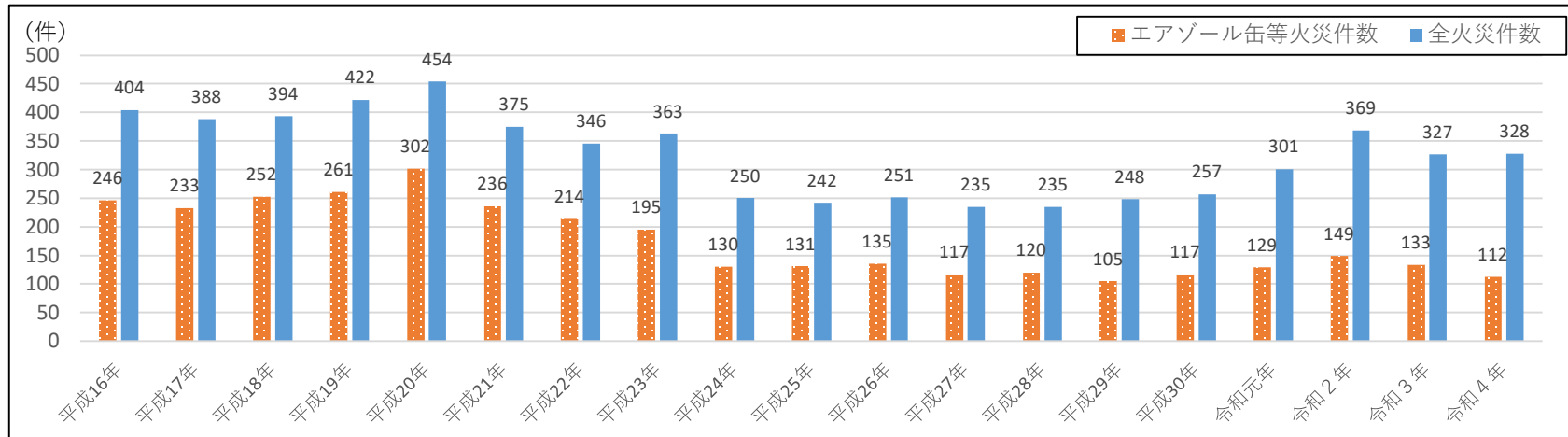


# 1 廃棄物処理施設等で発生したエアゾール缶等を原因とする火災統計の分析

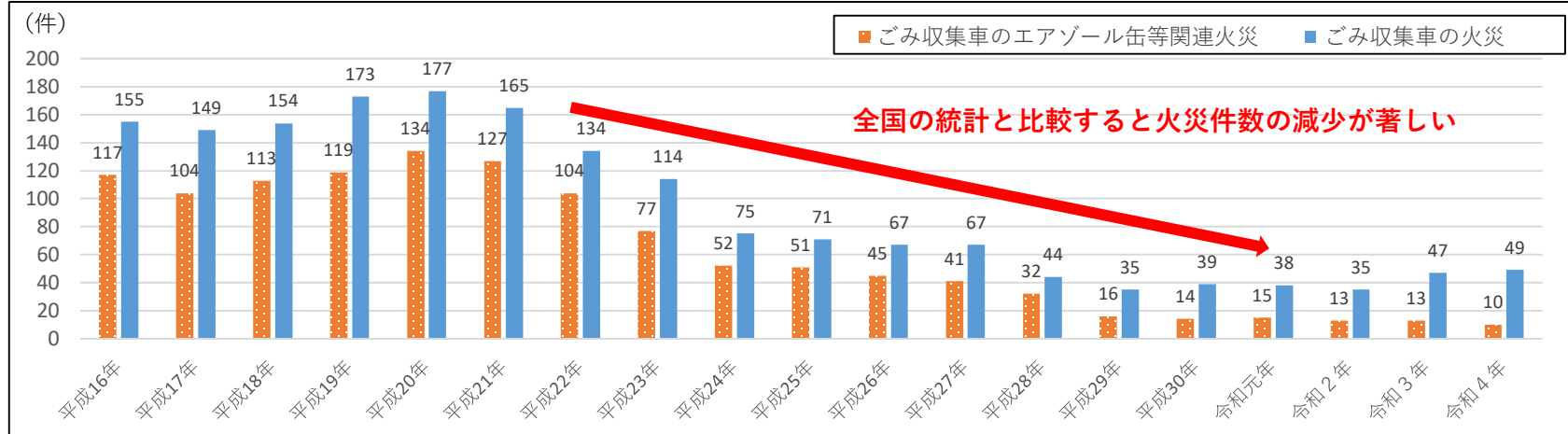
## (参考) 全国の統計と一部の地域の火災傾向の比較

- 一部の地域（東京消防庁）が公表している類似統計（平成16年から令和4年）と比較した。
- 全国統計と傾向は概ね同様であるが、東京消防庁管内でのごみ収集車の火災は継続して減少しており、10年前と比較すると約1割となっている。
- 東京消防庁では、「特異な出火原因別火災状況」としてエアゾール缶の火災状況を公表し、それら統計や火災事例を含めた広報を継続的に行っていることで火災件数の減少に一定の効果が見られているものと考えられる。

火災統計（全国）の統計



東京消防庁管内の統計



※「火災の実態 東京消防庁」より数値を引用

## 消防機関による火災予防広報の一例

- 東京消防庁においては、エアゾール缶等に起因する火災の分析を行い、その統計について周知している。
- また、機会を捉えて、事例を用いた具体的な広報を実施している。



東京消防庁 > 臨港消防署 > 地域の安心安全対策 > 火災を防ぐ > エアゾール缶による火災撲滅

## エアゾール缶による火災撲滅

### 可燃性ガスを用いたエアゾール缶やライターの処分にはご注意ください！

毎年、臨港消防署管内において、可燃性ガスを用いたエアゾール缶、カセットコンロ用ガスボンベや使い捨てライターが原因で、ごみ収集車の荷台から出火する火災が発生しています。



### 臨港消防署 メニュー

- ▶ トップページ
- ▶ 窓口案内
- ▶ アクセス・電話番号
- ▶ 管轄区域
- ▶ 消防署の紹介
- ▶ 水難救助隊
- ▶ 災害状況

### リンク集

- ▶ 東京消防庁ホームページ
- ▶ 申請様式はこちら
- ▶ 消防署・方面本部
- ▶ キッズコーナー
- ▶ 電子学習室
- ▶ Multilingual
- ▶ X (旧: Twitter)
- ▶ Facebook
- ▶ YouTube
- ▶ 東京消防庁公式アプリ
- ▶ 東京消防マップ
- ▶ 東京都救急受診ガイド
- ▶ 救急相談センター

### エアゾール缶やカセットコンロ用ボンベ

#### 対策

- 中身は必ず使い切ってください。
- 中身の見える袋に入れて、「資源」の日に出してください。
- ※なお、ご自身で穴を開けてガスを抜くことは大変危険ですので行わないでください。



### 使い捨てライター

#### 対策

- ごみとして出す前に、必ずガス抜きをしてください。
- 空のライターは中身の見える袋に入れて、「燃やさないごみの日」に出してください。

ヘアスプレー、殺虫剤などのエアゾール缶等は、可燃性ガスが使われている製品が多いので、使用前に必ず製品に記載されている注意書きを確認してください。

また、エアゾール缶等を厨房器具や暖房器具のそばなど、高温となる場所に置かないようにしましょう。

## 大切なお知らせ

# STOP！ボンベ火災



最近、不燃ごみを回収した、ごみ収集車の火災が相次いで発生しています。

缶の中に残ったガスが放出され金属同士の摩擦により火花が発生し火災に至っています。

一人ひとりがカセットボンベやスプレー缶等正しい捨て方を心がけて火災予防に努めましょう！

## スプレー缶等の廃棄方法

### ① 必ず中身を使い切る。

中身が残っている場合、換気の良い場所（屋外）で放出し、使い切って捨てましょう。



### ② 他の不燃ごみと分けて出す。

別袋に入れ、袋に「危険」と書いて集積所に出しましょう。



詳しくは目黒区ホームページへ



目黒区清掃事務所  
東京消防庁目黒消防署

## 2 屋内配線を発火源とする住宅火災の火災統計の分析

### 屋内配線を発火源とする住宅火災の火災統計の分析

- 第2回検討会において、電気器具類を発火源とする住宅火災の増加要因として、築年数の古い住宅の電気配線（屋内配線）の老朽化による漏電なども一因と考えられるのではないかとの意見により、屋内配線を発火源とする住宅火災の分析を行った。

#### 1 分析対象

昭和54年から令和3年までの火災統計のうち、以下の条件に当てはまるもの。

##### (1) 発火源

- ア 電気器具類（①配線に付属する器具、②電気配線、③電気機器、④電気装置）の火災件数
- イ ②電気配線のうち、電気配線（屋内配線※）を発火源とする火災件数

##### (2) 経過

分析対象の期間における全経過コード

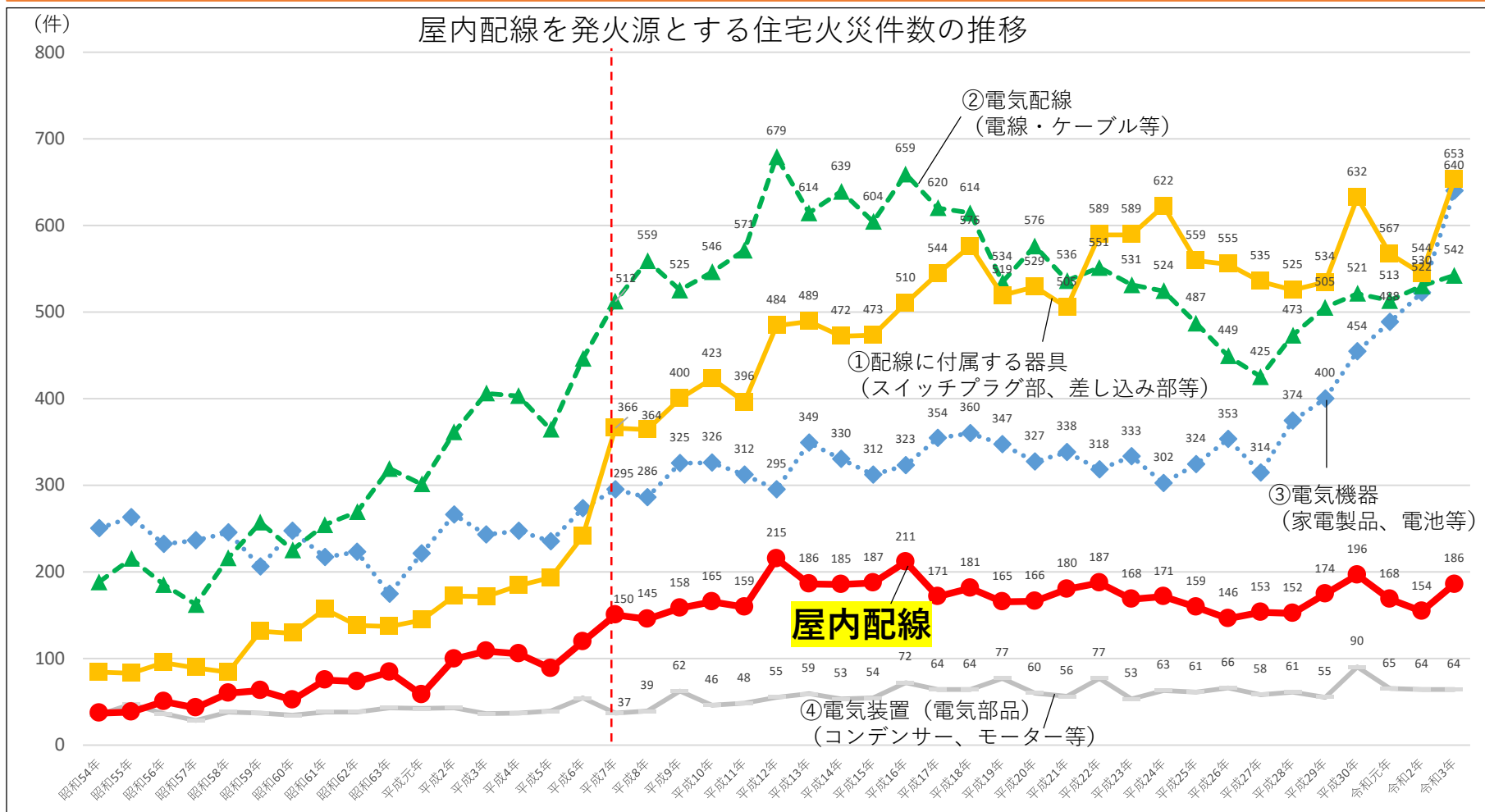
#### 2 留意事項

火災報告取扱要領の全部改正について（平成6年4月21日付け消防第100号消防庁長官）による改正以前（平成7年1月1日）の統計値は参考値である。

※昭和54年から平成6年まで 153 屋内線（以下、屋内配線を含む。）  
平成7年から令和3年まで 1506 屋内配線

## 2 屋内配線を発火源とする住宅火災の分析

- ②電気配線を発火源とする火災件数の推移を見ると、平成12年をピーク値として緩やかに減少していたものの、平成28年以降は再び増加傾向にある。
- 一方で、屋内配線を発火源とする火災件数の推移を見ると、電気配線と同様に平成12年をピーク値として以降はほぼ横ばいで推移している。



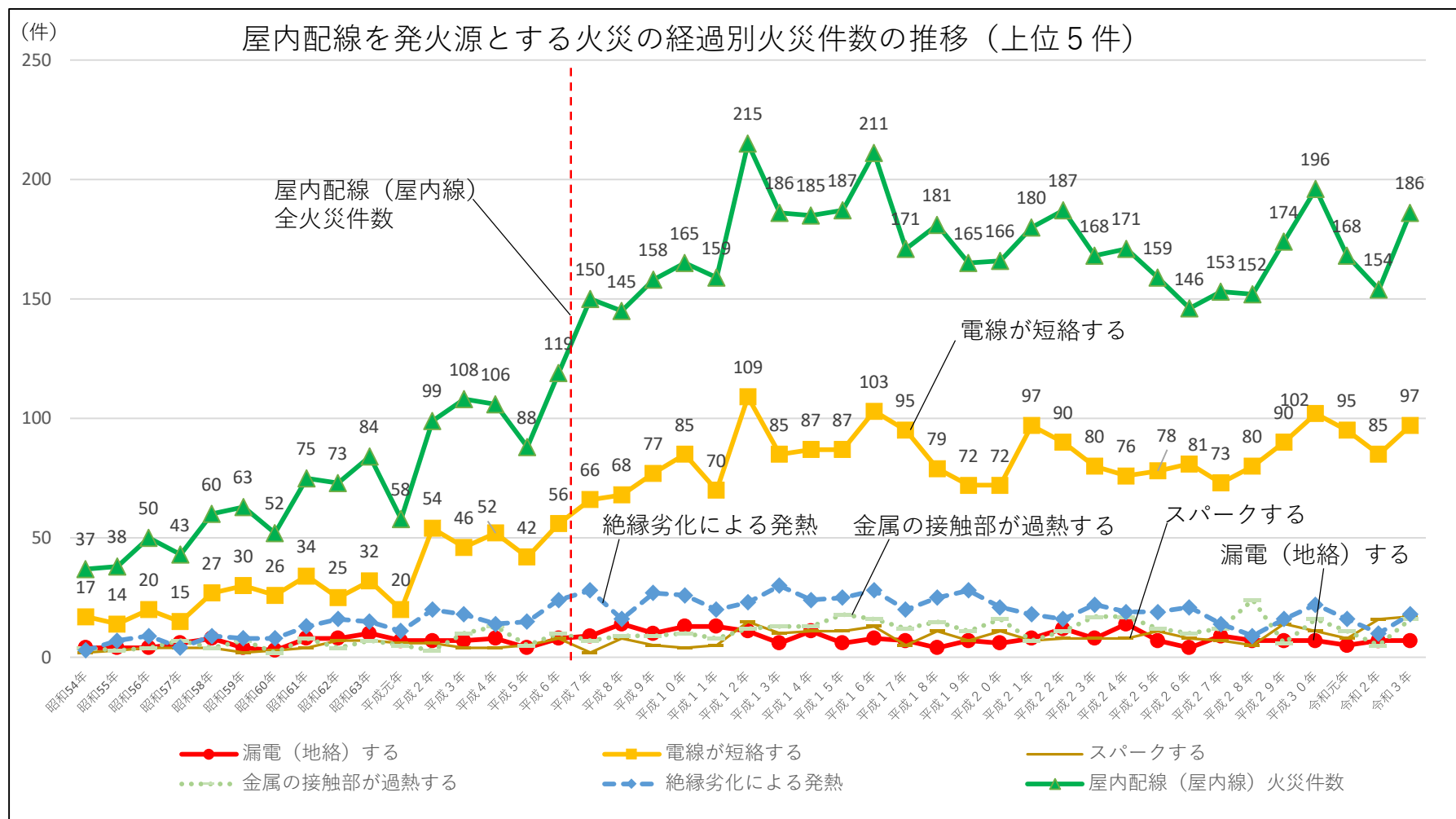
※火災報告及び消防研究用データより作成

注) 火災報告取扱要領の全部改正について (平成6年4月21日付け消防第100号消防庁長官) による改正以前 (平成7年1月1日) の統計値は参考値である



## 2 屋内配線を発火源とする住宅火災の分析

- 屋内配線を発火源とする火災の経過別上位5件について傾向を見ると、「電線が短絡する」に上昇傾向が見られるものの、その他の経過についてはほぼ横ばいとなっている。
- 「漏電（地絡）する」についても同様に、ほぼ横ばいとなっている。



※火災報告及び消防研究用データより作成

注）火災報告取扱要領の全部改正について（平成6年4月21日付け消防第100号消防庁長官）による改正以前（平成7年1月1日）の統計値は参考値である